

## 青野原駐屯地令和7年新春互礼会開催

東播支部 石田支部長以下6名は、令和7年1月21日(火)に兵庫県小野市中島町72の「小野市うるおい交流館エクラ」で実施された、青野原駐屯地令和7年新春互礼会に参加しました。

この行事は、駐屯地と駐屯地の協力会である防衛協会青野原駐屯地連合会が共催しており、毎年地域選出の国会議員、各種協力団体の長、近隣地域の有識者、各市町長、県議会議員、市議会議員等が参加し、長年「新春交歓会」という名称で開催されていましたが、約17年前からは「新春互礼会」に名称を変更して行っています。また、約10年前からは開催場所が駐屯地の体育館から駐屯地の外に移っています。

今年は、小林 憲治 1等陸佐が令和6年12月21日に栗田前駐屯地司令の後任として就任され、初めての部外有識者との交流事業となりました。小林駐屯地司令は開会挨拶において、「青野原駐屯地の49周年の歩みは、本日まで参加の皆様を含めた地域の方々のご支援・ご協力の下に成り立っている。」との謝意から始まり、「ロシアによるウクライナ侵攻も3年を超えていること、国内では阪神淡路大震災から30年を迎えたこと、その間に東日本大震災、能登半島地震等多くの災害等において自衛隊が活躍し、国民の皆様にも認められている状態となっていること、国内外の情勢において自衛隊の存在意義が高まることは、ある意味国が危機に瀕しているときであると言わざるを得ないこと、自衛隊は今後起きてはならない事態に備え、



新駐屯地司令 小林1佐によるご挨拶

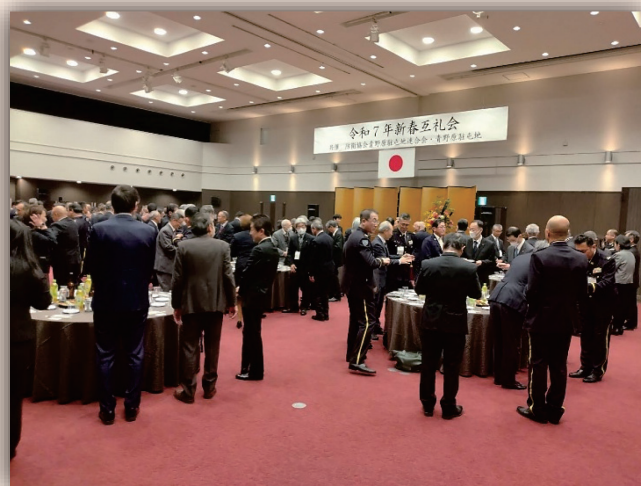


小川会長・丹波支部長・東播支部長との歓談風景

これで十分だと言える上限のない練度まで厳しい訓練を積み上げていくことが、我々自衛隊の責務であり国民の負託に答えることが出来る。」との所感に続き、「昨今国民の信頼を揺るがすような隊員の不祥事案が発生しており、当青野原駐屯地でも同様の事件が起きていることに対し、深くお詫び申し上げます。」と自戒の念を示された後、「その信頼の回復に努めるとともに、何時いかなる状況においても与えられた任務を必ず達成しうる部隊となるよう、より一層訓練に邁進してまいります。最後に地域に根を張った部隊として、更に地域の皆様に信頼されるような部隊となるよう一層精進してまいります。」と抱負を述べられました。

今年の互礼会参加者は132名であり、部隊側の参加者を含めると150名を超える規模となっており、終始盛り上がる中で皆様が新年のご挨拶を含めて名刺交換をされ約2時間の行事が終了となりました。

全国でも、新春の賀詞交歓的な行事を行っている駐屯地は数少ないと聞いています。国民の負託に答える自衛隊であるならば、国民との交流により、国民の理解を頂ける行事が減少することは残念に感じております。できるならば、今後も地域とともに歩む青野原駐屯地として新春互礼会を継続して頂きたいと願っています。



総勢150名を超える互礼会参加者